

諫早市教育委員会議事録
令和 7 年第 8 回（8 月定例）

令和 7 年第 8 回（8 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 7 年 8 月 2 7 日（水）
1 6 時 0 0 分～1 6 時 4 5 分
- 2 場 所 諫早市役所 8 階 会議室 8－2
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 池 政信
学校改革推進室長 青木 信高
学校教育課長 山口 隆
生涯学習課長 松原めぐみ
- 5 議 題
教育長の報告

議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事録の承認

令和 7 年第 7 回（7 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

まず心の教育ということで、今年は被爆 80 年です。

1945 年、昭和 20 年 8 月 9 日に浦上の上空約 490 m で爆発し、7 万 4 千人ほどの方が亡くなった。

その日の午後から原爆で負傷した約 2 千名の人々が、諫早に運ばれてきた。諫早は原爆とはあまり関係がないというけれども、警防団約 1300 名が中心となって、負傷者をリヤカーや担架に乗せて、市営火葬場等で荼毘に付されたと伝えられている。その場所が今、百日紅公園としてあり、8 月 11 日に慰霊祭が毎年行われ、今年も多くの方が式典に参加し冥福を祈った。

平成 17 年、2005 年には、諫早市は平和都市宣言をしている。8 月 9 日、全小中学校は登校日とし、これは県内の全ての小中高特別支援学校が登校日にして「原爆の日」として祈りを捧げた。

特に今年は被爆 80 年としての「非戦の誓い」や「平和宣言」など、今世界情勢が非常に混沌としているため、そういう世相もあっていろんな取組があった。

どんな取組をしているのか私も少し興味があり、いくつかの学校にどんなことを今年されたか聞いてみた。

そうすると生徒会で平和宣言をした。平和集会。いろんな方に来

ていただき話をしていただいた。

それから、各学級で考えた平和の誓いを画用紙に書き、それを代表児童が持って発表した。

6年生が千羽鶴の紹介をし、全校児童で折り鶴を作り、一つにまとめた千羽鶴を来年の社会科見学で平和公園に持っていくという、平和学習をしたのもあった。

それから校長先生の話にもいろんな話があって、例えば、ある校長先生が、日本では平和の誓いといったことがあるけれども、実はアメリカのワシントン州にあるリッチランドという町では、きのこ雲がまちの誇りになっていると。つまり長崎に落とされた原爆は、戦争を早く終わらせることができたという、そういった我々からするととんでもないような考え方ですが、向こうとしては、これのおかげで戦争が終わったといったようなことだと話をされた。

今のウクライナとロシアについても、戦争を終わらせるということの難しさが言えるのかなと。

しかし私達とすれば、もう二度と核が使われない、そういう誓いを持っていたいということもあって、平和の話題を取り上げた。

それから2番目は、今年いろんな各種大会があり、小中学生が非常に活躍した。まずバレーボールにおいては、諫早中学校、それから有喜を中心とした諫早ユナイテッドキングスが全国大会にでた。私も開会式に出席し、写真を載せているが、やっぱり全国大会は全国大会だなと思った。華やかさがあった。

有喜を中心とした地域クラブのチームは、決勝トーナメントまでは進んだが、1回戦で敗れた。

諫早中学校は、1回戦が札幌大谷中学校と対戦し2対1で勝ち、決勝トーナメントで、また札幌大谷中学校にあたり、2対0で勝った。

それで2回戦が文京学院大学女子中学校、東京都の代表ですが2対0で勝ち、3回戦が大阪府代表の金蘭会中学校と対戦、ここが最終的に優勝した。

去年は諫早中学校が準優勝でしたが、今年はここに敗れてベスト8という成績だった。しかし、応援風景が地元であったということもあって見事でした。

大会が諫早と大村だったので、諫早の中学校のバレーボール部員を中心に生徒たちや関係する教職員が出て、大会運営をやっており、見事な頑張りだったと、裏方で支えた子どもたち、教職員に「お疲れさま」と言いたい。

それから皆様も参加していただいた「九州地区市町村教育委員会

研修大会」が8月21日から22日にあり、シーハット大村で開会式があった。約800名が参加して、スポーツ庁の吉田戦略官が「部活動の地域展開」を、音楽家の藤重佳久氏が、「音楽は楽しく」と講演され、また国の重要無形民俗文化財「黒丸踊」が披露されて、非常に華やかさ、重厚さ、勇壮さといったものが演出されたと思う。

翌日は大村と諫早にわかれて、視察研修があった。諫早の視察研修については、こどもの城とコスモス花宇宙館にバス3台で訪問いただき、参加者からは「非常に参考になった」と、「自分のところでもこういうのがあればいいな」といったようなことを言われ、非常に満足して帰られたと報告を受けている。私はその時間、記者会見があり、そこに立ち会うことはできなかったが、教育委員会の皆さんがエスコートして充実した研修となった。

それから、夏期巡回ラジオ体操が24日の日曜日にあり、600人を超える方が来られた。

♪録音されたラジオ体操の様子を聴く♪

8月24日日曜日、今朝の夏期巡回ラジオ体操みんなの体操会は、長崎県諫早市からピアノ、細貝柊、体操、鈴木大輔でお伝えします。諫早市は長崎県の中央部に位置し。4本の国道とJR、島原鉄道が交わる交通の要衝として発展してきました。豊かな自然に恵まれ市の中央部を流れる本明川下流の諫早平野は、県内有数の穀倉地帯となっています。また、今年の3月1日に諫早市が合併して20周年となりました。会場の諫早市役所前中央交流広場には朝から多くの皆さんが集まっています。

非常に諫早のことを紹介していただけてよかった。

実は私が西陵高校の教頭のとくに、喜々津東小学校のグラウンドであり、たまたまシーサイドに西陵高校の社宅があったので参加した。それ以来の全国ラジオ体操への参加だった。

4番目、「子どもが輝く未来フォーラム in 諫早」が、8月18日に諫早文化会館であり、400名ぐらいの方の参加があった。

少子化の中で子どもたちが継続してスポーツ活動に取り組めるような、子どもたちがやりたいスポーツができるような環境作りを整えるために、国家プロジェクトで行っている。ゲスト講演者として森保一監督サッカー日本代表監督をお招きして非常に心に染みる講演会だった。対談で話されていたが、森保監督が通った深堀中学校にはサッカー部がなかったと。「サッカー部を作ってもらったらどうか」というお父さんの話で1年間他のところで練習し、1年後、

自分の学校にサッカー部ができ、そこから部活動をやったと。部がないから諦めるのではなく、どうやったらやれるかを考えるきっかけになり、いい経験だったという話をされた。

森保さんのお話をもう少し紹介すると、試合のスタートよりも試合が終わったときの方が成長したと思えるようにということを代表レベルの選手にも常に伝えていると。

それから1992年に日本代表監督のオフト監督から学んだことは、何をやるにしても、突き詰めて厳しくやるが、常に楽しむことを忘れないようにというようなことを学んだ。

長崎日大の生徒たちも質問したが、「今度のワールドカップの目標は何ですか」と聞かれたときに「てっぺんを狙うんだ。てっぺんとは優勝です。てっぺんを狙って今まで超えられなかったベスト8を勝ち取りたい。結局、ベスト8を目指しても、絶対にベスト8にはいかない。だから、てっぺんを狙ってベスト8以上を目指す」という監督の言葉に非常にすごいなと感じた。

部活動の地域移行、地域展開については、こんなことを言われた。

「部活動をやりたいくてもやれない子どもたちがたくさんいる中で、どうすれば子どもたちが好きなことをしてもらえるかという未来にバトンを繋ぐ話を今日は聞かせてもらった。」と

「部活動が地域に移行されていくということで最初は組織作りや運営は大変だと思うが学校単位での喜びが地域での喜びに繋がっていく。今まで学校だけの喜びだったのが、今度は地域全体の喜びに繋がっていく。より多くのコミュニティができるというのは本当に素晴らしいことだ」と、こういうぱっと未来を展開できるというのはすごいなと思って、後押しをしてもらったという思いがした。

そうすることで、諫早市は令和7年度末、つまり今年度中に休日の運動部活動の地域展開を考えている。平日は令和12年度までに国と歩調を合わせながら、しかし、できるところから平日もやっていくということです。

運動部活動の地域展開というのは、子供たちの明るい未来を切り拓く取り組みということです。私もこの地域展開については、だいぶ迷った。元々私は部活動人間なので、部活動と勉強の両立というのをずっと言ってきた人間なので、部活動を学校から離すということは、正直だいぶ抵抗があった。

しかし、最初に言ったように少子化の中で学校にとどまっていたら、自分がやりたいスポーツができない。だから、地域に出て、地域の中の指導者に指導をしていただくと、子供たちにとっては生涯スポーツに触れる機会があるのかなということです。

ただ課題もある。その課題の一つは指導者です。特に競技人口の少ない部の指導者がおられるかどうか。それから資金です。今までには学校の先生が顧問としてやっていたから謝金等は要らなかったが、これからは地域クラブになるので指導者には一定の謝礼も必要だろうと、もしくは移動するときのガソリン代などもあるので、今、いろいろ考えながらやっている。国や県の補助、そして、企業等のバックアップなんかも含めて、どうしていくか、苦しみながらやっているところですよ。

森保さんが言ったように、最初の組織作りや運営は大変だと思うが、必ず未来に繋がる取り組みだということを言われたので、それを信じて追い風にしていっていきたいと思う。

[委員]

全国バレーボール選手権大会で、今後、クラブチームになった場合、裏方の教職員はどうなりますか

[教育長]

教職員は難しいと思う。地元の中学生在が関わっているということで要請はあるかもしれない。

[委員]

部活動の地域移行に関してですが、先日長崎新聞に、雲仙市が子供たちが移動するのをサポートするバスを出しているという話を見たけれど、諫早市でもそのような予定があるか。

[学校教育課長]

クラブが始まる時間が、現在スクールバスとして使われている時間帯なので、そのあたりどうにか調整できればと思う。工夫していきたい。

その他

教育総務課長

9月の定例教育委員会の日程について

16時45分閉会